

Title	「小林カツ代と栗原はるみ」：ツタヤ図書館の OPAC からの考察
Author	川瀬, 綾子 / 北, 克一
Citation	情報学. 17 卷 1-2 号, p.34-42.
Issue Date	2020-10-03
ISSN	1349-4511
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学創造都市研究科情報学専攻
Description	
DOI	10.24544/ocu.20201015-002

Placed on: Osaka City University

「小林カツ代と栗原はるみ」
—ツタヤ図書館の OPAC からの考察—
“KOBAYASHI Katsuyo vs. KURIHARA Harumi”
— The Study of TSUTAYA Library OPAC —

川瀬 綾子[†]、北 克一^{††}
Kawase Ayako, KITA Katsuichi

要旨：小林カツ代と栗原はるみは、日本を代表する家庭料理のカリスマである。しかし、その「評価軸」は大きく異なる。小林カツ代は 1980 年代初頭の NHK の「きょうの料理」への出演を機会に日本を代表する料理研究家となった。その料理を代表するキーワードは、「働く女性の味方」である。一方、栗原はるみは、1990 年代を代表する「モダンな主婦のカリスマ」を纏う。本稿では、日本を代表する家庭料理のカリスマである 2 人を軸に、ツタヤ図書館の OPAC の内実に関して考察を進める。

キーワード：ツタヤ図書館、和歌山市民図書館、ライフスタイル分類、小林カツ代、栗原はるみ、家庭料理のカリスマ

Keywords : Tsutaya Library, Wakayama Civic Library, Lifestyle Classification, KOBAYASHI Katsuyo, KURIHARA Harumi, Home Cooking Charisma

1. はじめに

TSUTAYA を運営するカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社(以下、CCC)が公立図書館の運営を担い 7 年が経過した。そして、2020 年 3 月に第 6 の「ツタヤ図書館」となる和歌山市民図書館が開館した¹。

本稿では、CCC が独自分類と標榜するライフスタイル分類について、その力点をおく大ジャンル「料理」から、日本を代表する家庭料理のカリスマである小林カツ代と栗原はるみの 2 人を軸に、ツタヤ図書館の OPAC の内実に関して、最も新しい受託館である和歌山市民図書館を中心に考察を進める。

最初に CCC の創業者、代表者である増田宗昭社長のライフスタイル分類に関しての発言を確認する。

この独自分類(ライフスタイル分類と自称)について、CCC 社長の増田宗昭氏は、インタビューにおいて次のように述べている²。

—CCC の独自分類が戻しにくくしているのでは。利用者も探しにくい。

増田；探しにくいって言う人もいるし、発見があるって言う人もいる。

—もし、自治体が「いや、これは探しにくさのデメリットのほうが大きい」となったら…

増田；それは CCC を採用しない。

—となると分類方法を変える？

増田；いや、変えない。市が俺たちを採用しないってことよ。俺らの持ち味は独自分類だから。(下線は、著者)

—CCC が指定管理者である以上は、独自分類を続けるということですか？

川瀬 綾子[†] 立命館大学

北 克一^{††} 大阪市立大学

増田；じゃなければやる意味がない。

また、同氏は武雄市図書館運営に関連して、独自分類(ライフスタイル分類)について次のように述べている³。

TSUTAYA では、文学、料理、旅、車…といったジャンルでまずエリアを分け、(下線は筆者)そこに関連する雑誌や単行本や古書までを配していく。提案を売るのであれば、近い提案内容のものをまとめておくほうが、顧客にとって使いやすい、つまり顧客価値が大きいからだ。

「武雄市図書館」の運営を委託された際に、私たちが本の分類を日本十進分類法から変更することにこだわったのも、同じ理由だ。これまで日本中の図書館がこの分類で動いてきたのはわかる。しかしだからといってそれにこだわり続けるのは、図書館の事情を利用者に押し付けているだけではないのか。そう考えたからなのだ。

2. 和歌山市民図書館のフロア概要

本章では、和歌山市民図書館のフロア構成を確認する。

和歌山市民図書館は、4フロアからなる。Webサイトの「ご利用ガイド」-「施設概要・開館時間」からの引用で各フロアの概要を示す⁴。ただし、1階は図書館ではなく、ツタヤ書店及びスターバックスが中心である。

1階:「和歌山の上質品」をコンセプトに和歌山で作られた特産品、名産品を幅広く取り揃えています。書店エリアでは雑誌を中心に、生活をより豊かにする「食」「暮らし」「美容」「健康」の書籍など厳選された最新の本と、日常使いから贈り物にもできる文具・雑貨をセレクトして提案しています。カフェのドリンクは一部のエリアを除いて館内のどのフロアにもお持ち込みいただけます。

2階:和歌山県のことがわかる「和歌山ことはじめ」、和歌山市が誇る作家・有吉佐和子氏の「有吉佐和子文庫」、文学文芸書、また「料理」や「住まいと暮らし」「旅行」といったライフスタイル

に関する本を揃えています。静かな空間で落ち着いて読書ができるほか、多目的ルームも用意しています。

3階:国内公立図書館唯一の移民専門資料室である「移民資料室」をはじめとして、郷土、社会、自然科学、教育、アートといった専門分野の本を揃えています。静かな環境で学習に専念できる学習室のほか、座ってお食事のできるテラス席があります。

4階:ゆったり座ることのできる階段状になった「えほんの山」や、ひみつの「本のどうくつ」など、わくわくするスペースでおはなし会などをお楽しみいただけます。プレイスペースでは、知育玩具を使った創造性を育む遊びを体験することができます。「もぐもぐスペース」では持ち込みのお弁当をお召し上がりいただけます。和歌山市地域子育て支援拠点施設を併設しています。

引用から分かるように、2階は日本十進分類法では無く、ライフスタイル分類を導入した「ライフスタイルに関する本」を配置している。なお、「和歌山ことはじめ」、「有吉佐和子文庫」等は、別途の独自展開である。

3階はNDC配列による「総記」から「言語」までの資料が中心となっている。

4階は、幼児サービス、児童サービスを対象としたフロアである。

3. ライフスタイル分類と大ジャンル「料理」

では、このCCCの「独自分類」は、和歌山市民図書館でどのように展開されているのだろうか、検証を具体的に進める。

最初に和歌山市民図書館のライフスタイル分類と大ジャンル(第一次区分)を確認する。和歌山市民図書館では、表1に示した38区分を設定している。

表1 和歌山市民図書館の「大ジャンル」38区分

料理	家政学
旅行	産業

住まいと暮らし	芸術
美容・健康	体育・各種競技
ファッション	諸芸・娯楽
スポーツ・アウトドア	言語
趣味実用	文学
音楽	大活字
ビジネス	点字
IT	和歌山ことはじめ
総記	郷土
哲学	行政資料
宗教	移民資料
歴史	有吉佐和子文庫
地理・地誌	洋書
社会科学	雑誌
自然科学	AV 資料
医学・薬学	児童書
技術・工学	ティーンズ

この内、「料理」から、「IT」までは CCC 独自のライフスタイル分類であろう。

しかし、それに続く「総記」から「文学」までは、概ね日本十進分類法の類(第一次区分)の列挙である。

また、「大活字」、「点字」、「洋書」、「雑誌」、「AV 資料」などは資料種別であろうし、「児童書」、「ティーンズ」などは利用対象者区分である。

残る「和歌山ことはじめ」等は、和歌山市民図書館の独自展開である。

このように和歌山市民図書館の大ジャンル 38 区分は、統一された CCC のライフスタイル分類を全体に一貫して展開しているとは理解できない。

以上のように概略を眺めた和歌山市民図書館におけるライフスタイル分類は、混乱と妥協の産物に見える。先に見た増田のライフスタイル分類への「見識」と「自賛」とは、似ても似つかない。

なお、このような竹と木をつぐ「大ジャンル」区分に至った背景事情は公開されていない。しかし、同図書館の 3 階フロア展開に鑑みれば、類推が可能である。

同図書館の 3 階フロアのコネクトは、「自分を高める場」である。主題分野として「総記」、「哲

学」、「歴史」、「社会科学」、「技術・工学/産業/言語」、「芸術」及び「参考図書」が配架されている。これから明白なように、ここでの主題区分は NDC 区分である。

なお、先述の通り同フロアには「移民資料室」、「郷土資料」が併設されている。また、学習室も配置されている。

3.1 ライフスタイル分類「料理」と「日々のごはんの達人」

本節では、大ジャンルの中からライフスタイル分類の筆頭ジャンルである「料理」に焦点を当てる。

CCC の OPAC におけるジャンル構成は「大ジャンル」－「中ジャンル」－「小ジャンル」－「仕切」－「細目」の系を枠として持っている。

こうした系の中で、大ジャンル「料理」の展開で最も特徴的な系を事例に考察を進める。

大ジャンル	料理
中ジャンル	食卓のレシピ
小ジャンル	日々のごはんの達人
仕切	日々のごはんの達人 ⁵
細目	青山有紀
	(以下、略)

このように区分の最下位区分では、「日々のごはんの達人」として、料理研究家 21 名の固有名が列挙されている。表 2 にそれを示す⁶。なお、参考に著作例を例示した。

表 2 日々のごはんの達人—料理研究家

料理研究家	DATE	著作例
青山有紀	1974-	青山有紀のおばんざい弁当, 2011
有元葉子	1942-	有元葉子の料理教室 3, 2019
飯島奈美	1969-	LIFE 副菜 2, 2017
ウー・ウェン	1963-	ウー・ウェンの家庭料理 8 つの基本, 2017
枝元なほみ	1955-	枝元なほみの

		簡単レシピ, 2014
奥菌壽子	1947-	奥菌流からだ 想いのひとり ごはん, 2018
栗原はるみ ⁷	1947-	Harumi MY JAPANESE KICHIE, 2018
ケンタロウ ⁸	1972-	ケンタロウの ムズカシイこ とぬき!, 2011
コウケンテツ	1974-	コウケンテツ の だけ 弁 , 2019
小林カツ代	1937-2014	小林カツ代の 日常茶飯食の 思想, 2017
高山なおみ	1958-	帰ってきた 日々ごはん, 2015
辰巳芳子 ⁹	1924-	お肴春秋, 2020-
土井善晴 ¹⁰	1957-	土井善晴の素 材のレシピ, 2019
飛田和緒	1964-	私の保存食手 帳, 2016
野崎洋光	1953-	おいしいごは んの勘どころ, 2015
浜内千波	1955-	浜内千波の朝 ごはん, 2009
平松洋子	1958-	肉まんを新大 阪で, 2018
松田美智子	1955-	定番ご飯 20セ レクション, 2012
村上祥子	1942-	村上祥子の電 子レンジでシ ニアごはん, 2020

行正り香	1966-	肉の本 今夜は お肉を食べよ う, 2018
ワタナベ マ キ	1976-	作り込まない 作りおき, 2018

「細目」では、全部で 21 名の料理研究家を一覧収録している。生年も幅広く、一部には物故者もおられる。ただし、第一世代の料理研究家である、戦後の高度成長期以前に、概ねデビューした飯田深雪(1903-2007)、入江麻木(1923-1988)、江上トミ(1899-1980)、村上昭子(1927-2004)、土井勝(1921-1995)、城戸崎愛(1925-2020)、辰巳浜子(1904-1977)等は、この「日々のごはんの達人」ファイルには、収容されていない。「日々のごはんの達人」として、この 21 名がいかなる根拠に基づいてリストアップされたかは不明である。

和歌山市民図書館には、「日々のごはんの達人」としてリストアップした特定 21 名の料理研究家の選定根拠を公開することを望みたい。

このリストアップから類推できるのは、CCC 分類において、「日々のごはんの達人」として列挙しているのは、「今、ツタヤ書店での売れ筋の著者」であろう。

この意味では、「過去の先祖からの贈り物」を現在に提供し、「未来の子供たちからの預かりもの」を将来に届けようとする図書館の基本的な機能を持たないツタヤ図書館(書店)であり、図書館もどきの姿である。

設置公共団体としての和歌山市の見識を問うておきたい。歴史の評価を待つ必要がある。

また、直近に開館した周南市立德山駅前図書館の「日々のごはんの達人」のリストを参照すると、土井善晴、ワタナベ マキの 2 名は存在していない。しかし、和歌山市民図書館において追加収録された事由は不明である。

3.2 戦後第 1 期の料理の達人たち

では、前節で触れた戦後第 1 期の料理の達人たち—飯田深雪、入江麻木、江上トミ、村上昭子、土井勝、城戸崎愛、辰巳浜子等は、和歌山市民図書館の OPAC においてどのように扱われている

のだろうか。

阿古真理の解説¹¹を参考に、数人を抜粋して、OPAC での扱いを検証する¹²。なお、書誌事項はタイトル、出版年、付与ジャンルのみ限定した。また、所蔵館は和歌山市民図書館(本館)とした。

3.2.1 「高度成長期の西洋料理」¹³

最初に高度成長期の外国料理の紹介者として、江上トミ、飯田深雪を取り上げる。

① 江上トミ

・世界の料理 [江上トミ日本語監修] 1-20, 別巻, 1972-1974.

料理/食卓のレシピ/世界のごはん/世界のごはん

・お料理しましょう 四 全, 1986
児童書/点字/点字/点字

② 飯田深雪

・喜ばれて喜んで 96 歳 : おもてなしへの招待状, 2009.

伝記/伝記/個人伝記/日本の個人伝記

・シチュウとスープ, 1979.

料理/食卓のレシピ/日々のごはん/スープ 14

・サラダ, 1979.

料理/食卓のレシピ/食材/野菜/サラダ

・デザート, 1979.

料理/食卓のレシピ/お菓子/お菓子

・肉料理 : 牛・仔牛・豚・羊, 1979.

料理/食卓のレシピ/食材/肉

・オードブル, 1980.

料理/食卓のレシピ/日々のごはん/おもてなしレシピ

・チーズ料理, 1980.

料理/食卓のレシピ/食材/乳製品

・スナック : 付野菜料理, 1979.

料理/食卓のレシピ/日々のごはん/日々のごはん

・お料理しましょう 二 全, 1986.

児童書点字/点字/点字

このように江上トミ、飯田深雪、共にいくつかの所蔵が確認できたが、「日々のごはんの達人」のファイルには収録されていない。

3.2.2 「1980年代のファンシーな料理」¹⁵

国民の多くが中流意識を持った時期、代表として入江麻木、城戸崎愛を取り上げる。

① 入江麻木

・入江麻木の小さなフルコース, 1983.

料理/食卓のレシピ/日々のごはん/洋食

・さあ、熱いうちに食べましょう : 料理エッセイ集, 2019.

料理/食の読み物/グルメエッセイ/グルメエッセイ

② 城戸崎愛

・伝えたい味, 2008.

料理/食卓のレシピ/日々のごはん/日々のごはん

・ラブおばさんのらくらく&元気ごはん作り, 2009.

料理/食卓のレシピ/日々のごはん/かんたん料理

・mama's café vol.16, 2010.

料理/食卓のレシピ/日々のごはん/カフェごはん

・91 歳、現役料理家命のレシピ : 食は生きる力, 2010.

料理/食の読み物/グルメエッセイ/グルメエッセイ

このように、入江麻木も城戸崎愛もいくつかの所蔵が確認できた。

以上確認したように、戦後第 1 期の料理の達人たちはいずれもそれぞれの時代の風、空気の中で登場し、一世を風靡した足跡を残している。

しかし、和歌山市民図書館の OPAC においては、「日々のごはんの達人」としては、索引付けがされていない。これらの著者たちは、その著書の CCC の販売ランクによる恣意的なリスティングにより、「日々のごはんの達人」としては排除された疑念が残る。

3.3 小林カツ代と栗原はるみ

本節では、「日々のごはんの達人」の著者リストから、象徴的な代表者として小林カツ代と栗原はるみを取り上げる。

ここで「日々のごはんの達人」とは、日本全国の一般的な「家庭」において、日々の食事のレシピを示してくれる「達人」である。

またここには、標準的な「家庭」(夫婦、子供2名)を前提とした暗黙が存在している。

さて、小林カツ代と栗原はるみは、日本を代表する家庭料理のカリスマである。しかし、その「評価軸」は大きく異なる。

小林カツ代は1980年代初頭のNHKの「きょうの料理」への出演を機会に日本を代表する料理研究家となった。その料理を代表するキーワードは、「働く女性の味方」である(下線は、筆者)。

阿古真理は、その著作において「小林カツ代が、時短料理を提案し、時代の寵児となった1980年代は、仕事を持つ既婚女性の層が拡大した時代だった。(中略)しかし、大多数の企業は人件費節約のために既婚女性の活用を進めた。パートである。」¹⁶と、その背景に触れている。

一方、栗原はるみは、1990年代を代表する「モダンな主婦のカリスマ」(下線は、筆者)を纏う。

阿古は「栗原の名を男性たちの間にも広めた『カリスマ主婦』という言葉は、分裂した意味を持っている。(中略)栗原自身は家族の関係を守る要として、主婦の役割を任じているのであり、旧来の主婦と違い、自らがスポットライトを浴び、意識しなければ家族と過ごす時間も持てない多忙の中にある。その矛盾こそが平成という時代を体現している。」¹⁷と、述べている。

久保明教は、「カツ代の『時短レシピ』は、単に時間が短縮できるだけでなく、時間が短縮できて美味しいだけでもない。それは十分な時間の余裕がない中で(中略)『知恵と工夫でカバー』すれば『ご機嫌な』生活が送れるのだとメッセージを伝え、それを実現するための武器を授けるレシピなのである。」¹⁸と解析している。

さらに小林カツ代のレシピについて、「『簡単で美味しい』というイメージからは意外に思われるだろうが、カツ代のレシピを初見でうまく作るのは結構難しい。(中略)その要因の一つは、レシピにおける調理指示のあいまいさにある。」¹⁹と指摘している。

一方、栗原はるみについて、久保明教は次のように評価している。

はるみの料理本では、(中略)料理を中心に栗原家の落ち着きながらも素敵な生活を綴るエッセイ調の文章がレシピの傍らに配置され、キッチンで躍動しリビングで寛ぐはるみのグラビア、料理だけでなく洗練された趣味でまとめられた食器や調理器具やテーブルの綺麗な写真が誌面を彩る。(中略)はるみの著作はさながらアイドルの写真集とライフスタイル雑誌が融合したような体裁をとっている²⁰。

以上、明らかに両者のスタンス、社会評価等は異なる。

背景の消化と止揚には、長い時間を要しよう。

4. 和歌山市民図書館のライフスタイル分類

4.1 CCCのOPACの「料理のカリスマ」の実態

以上、検討を進めてきた結果、和歌山市民図書館で提供しているOPACの機能は、概ねツタヤ書店での「売れ筋著者」に過ぎないという疑念が、浮かんできた。

今後、和歌山市民図書館はその日々の実践活動において、こうした疑念を払拭していくことが望まれる。

ただし、CCCへの全面委託の状況では、ほぼ不可能な現状であろう。

4.2 NPM(New Public Management)の潮流

永田潤子、遠藤尚秀編『公共図書館と都市経営の現在：地域社会の絆・醸成へのチャレンジ』²¹では、「第II部 都市経営の実践としての図書館経営」において、和歌山市民図書館に関連して、次の二つの事例を取り上げている。順次に検討する

4.2.1 和歌山市教育委員会の自己礼賛

「第6章 地域活性化を目指した指定管理者による図書館運営—和歌山市民図書館の取り組み」の分担執筆者は坂下雅郎である。同書の「執筆者紹介」²²では、次の記述がある。

和歌山市教育委員会教育学習部長。和歌山市民図書館長を経て、現職。

要は、ツタヤ図書館導入の中心人物である。坂下は、担当章を次のように結んでいる。

民間事業者と行政の協働により、新たな行政施策を発展させることが今後ますます必要となってくると考える。

坂下は「新図書館管理運営の基本的考え方」において、次の三点を示している²³。

- 1) 想像力豊かな専門的人材を育成・配置し、柔軟な運営体制を構築する²⁴。
- 2) サービスの向上と業務効率化を推進する。
- 3) 市民の力を活用した「みんなで育てる図書館」を目指す。

さらに、「指定管理者制度の導入」²⁵において、「新しい図書館づくりのためには、民間の創意工夫による民間活力の導入が必要であるとの結論で指定管理者制度の導入を決定した。」と述べている。

表面的な美辞麗句でなく、和歌山市民図書館のツタヤ OPAC を少しでも検証した上での発言であろうか、疑問が残る。

4.2.2 CCC の自己賛美

「第 7 章 指定管理者からみた行政とのコラボレーションーCCC の運営図書館。5 つの特徴と 3 つの約束事」²⁶の分担執筆者は、高橋聡である。同書の「執筆者紹介」では、次のように記述している²⁷。

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社公共サービス企画カンパニー社長。(中略)武雄市図書館の指定管理者として、リニューアルのコンセプトづくり、サービス企画から内装設計、運営まで担う。以降、海老名市立中央図書館、多賀城市立図書館などの指定管理業務も行う。

高橋は、担当章を次のように結んでいる²⁸。

効率化や提供者都合で考えてしまいがちな図書館のコンセプトや運営の企画を、利用者目線

に変えるのは容易ではない。(中略)今後も CCC では利用者目線で徹底的に情報修正し、分析し仮説を立て、本当に必要な価値は何かを追求していきたい。それが本来あるべき民間と行政のコラボレーションであるといえよう。

徹頭徹尾、自己賛美の内容である。武雄市図書館以降のツタヤ図書館に対して、提起された多くの批判や疑問について正面から反論することはない。

「本来あるべき民間と行政のコラボレーション」の姿は、事業者による行政機能の「おんぶに抱っこ」による抱え込みの定着ではあるまい。

和歌山市民図書館を含むツタヤ図書館の利用者像は、あくまで商業マーケティング対象であり、消費者である。共に、図書館を、街を作り上げていく行政のパートナーとしての市民ではない²⁹。

5. さいごに

本稿では、和歌山市民図書館の OPAC のライフスタイル分類について、大ジャンル「料理」から「日々のごはんの達人」に焦点をあてて、その虚偽性を指摘した。

一見、はなやかな言説の裏で進行している実態を、見つめる努力を続けることが重要である。

今後共に、ツタヤ図書館の展開には注意を続けたい。

引用文献

¹ コロナ禍のもと、2020年3月から、一部サービスを開始して部分開館をしていた。

新たに2020年6月5日より、一部の制限を含みつつも、一般開館に踏み切ることが広報している。

お知らせ[2020/06/01]

新和歌山市民図書館の開館について

新和歌山市民図書館が、令和2年6月5日(金)に開館します。

これまでは、新型コロナウイルス感染症対策として一部のサービスに限定して運営していましたが、感染拡大防止の対策を講じ、全フロアの利用が可能になります。

1 開館時間

午前9時から午後9時まで(年中無休)

2 サービス内容

- ・ 図書の貸出、返却、予約受付・受取り
 - ・ 閲覧席での読書、学習席の利用 (※3階学習室内の座席はご利用できません)
 - ・ 有吉佐和子文庫、移民資料室の利用
 - ・ 新聞、雑誌の閲覧
 - ・ 館内 Wi-Fi の利用、館内 iPad での図書検索等
 - ・ 4階こどもとしゃかん内プレイスペース、屋上芝生広場の開放
 - ・ 蔦屋書店 (物産販売含む)、スターバックス
- ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスクの着用をお願いします。
- ※入館時に手指消毒をお願いするほか、体温を非接触型体温計にて計測させていただきます。

そのため、一部の入館できる入口を閉鎖しております。

※来館者が多数の場合には、入場制限をさせていただきます場合があります。

※スタッフによる定期的なテーブル・椅子等の殺菌消毒を行います。

※5都道県(北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)からの利用者に対しては、ご利用の自粛をお願いします。

3 その他

・ 図書館イベント等の行事は、7月以降実施予定です。

なお、今後の感染状況により内容変更することがあります。

https://wakayama-sp.civic-library.jp/ja/info_age/1112

[確認:2020年9月10日]

² 「独占直撃 図書館のこと、本のことすべてにゆえよう」『週刊東洋経済』2015年10月31日号, p.53.

³ 楽園計画編『図書館が街を創る。:「武雄市図書館という挑戦」ネコ・パブリッシング, 2013.4, p.121.

なお、同書の出版社であるネコ・パブリッシングは、CCCグループの子会社である。

⁴ 「ご利用ガイド」-「施設概要・開館時間」

<https://wakayama-sp.civic-library.jp/guide>

[確認:2020年9月10日]

⁵ 小ジャンル「日々のごはんの達人」と下位区分である仕切「日々のごはんの達人」が、同一反復しているのも疑問が残る。

⁶ 和歌山市民図書館 OPAC

https://wakayama-sp.civic-library.jp/ja/library_search/conditions

[確認:2020年9月10日]

⁷ 栗原はるみ。配偶者は、モーニングショウの草分け司会者であった栗原玲児。長男、栗原心平(1978-)は、テレビ東京系の料理番9組「男子ごはん」にMCの国分太一と共にレギュラー出演をしている。元は小林カツ代の息子のケンタロウ(1972- 小林健太郎)がレギュラー出演をしていたが、彼のオートバイでの交通事故により栗原心平が「代理」出演をすることになった。

⁸ 母は、小林カツ代(1937-2014)。

⁹ 母は、辰巳浜子(1904-1977)。

¹⁰ 父は、土井勝(1921-1995)。

¹¹ 阿古真理『小林カツ代と栗原はるみ:料理研究家とその時代』(新潮新書;617), 新潮社, 2015, p.19-37.

¹² 和歌山市民図書館のOPAC検索は、2020年9月10日に実施した結果である。

¹³ 前掲11)。 p.19.

¹⁴ ジャンルから「シチュー」が消えているのは、不可思議である。

特に、前掲11)が戦後の料理研究家の時代観察のメルクマールとして、指標に採用したビーフシチューがない。

¹⁵ 前掲11)。 p.38.

¹⁶ 前掲11)。 p.93-94.

¹⁷ 前掲11)。 p.160.

¹⁸ 久保明教『「家庭料理」という戦場:暮らしは

デザインできるか?」コトニ社, 2020, p. 032.

¹⁹ 前掲 18)。P.032.

同様の面白い「あいまいさ」は、例えば次にもある。

壇一雄『檀流クッキング』檀流クッキング (中公文庫 BIBLIO), 2002.

²⁰ 前掲 18)。p.043.

²¹ 永田潤子、遠藤尚秀編『公共図書館と都市経営の現在：地域社会の絆・醸成へのチャレンジ』(都市経営研究叢書;4), 日本評論社, 2020.

²² 前掲 21) p.194.

²³ 前掲 21) p.097-098.

²⁴ 和歌山市民図書館の担当者募集の条件が、次のサイトで確認できる。

job.tsite.jp/detail/217721

正社員で 2,800,000 円/年俸～

契約社員で 2,320,000 円/年俸～

所得税、社会保険料、住民税等を差し引くと、

完全なワーキングプアーである。

坂下が述べる「想像力豊かな専門的人材を育成・配置」するのに、必要にして十分な給与待遇であろうか。

²⁵ 前掲 21) p.098-099.

²⁶ 前掲 21) p.101-116.

²⁷ 前掲 21) p.194.

²⁸ 前掲 21) p.116.

²⁹ このことは、例えば前掲 21)に収録されている次の文献と読み比べれば明瞭である。

嶋田学「第 5 章 公募図書館長のリーダーシップ—瀬戸内市民図書館の取り組み」p.077-090.

綾野昌幸「第 8 章 公園のような図書館—伊丹市立図書館の取り組み」p.117-131.

[2020 年 9 月 20 日 受理]